

2024年7月17日（水） マリア会 奨励要旨

赤井博夫

賛美 新聖歌 171『今日まで守られ』

聖書箇所 マタイの福音書 5章9節

『平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから。』

タイトル 『平和をつくる者』

今日の賛美は父が年末などに家族が集まった時によく歌っていた讃美歌です。

父は1945年8月6日に広島で被爆しました。奇跡的に助かり、また本田クルセードで2度目の奇跡が起きました。88年と10ヵ月の日々は「今日まで守られ」の連続でした。父は毎年8月6日、8月15日がめぐってくるたびに、あの悪夢を思い出し、平和を祈ったようです。

本日の聖書箇所はマタイの福音書5章からです。いわゆる「山上の垂訓」と言われるイエス様の説教場面です。

1節に『この群衆を見て、イエスは山に登り、おすわりになると、弟子たちがみもとに来た』とあります。そこですぐに語り始めておられますので、弟子たちに語られたと想像できます。

3節の『心の貧しい者は幸いです。』から始まり、8つの祝福が語られています。

その中で今日は9節を共に学びたいと思います。

この中の注目すべき言葉は『平和をつくる』です。新共同訳では『平和を実現する』となっています。もう一つの言葉は『神の子』です

平和をつくるの反対は平和を壊す、平和の対局は戦争、一方、神の子の反対は人の子と言えます。

5章のあちこちに、関連する言葉があります。

たとえば、22節～24節、38節～44節、45節、46節～47節等々

マザーテレサの言葉に「私たちが愛のために働けば、それはそのまま平和のために働いたことになります」があります。

私たちが日々の生活の中で、上記の御言葉の実践をしていく時、『平和をつくる者』の幸いをいただくことになるのです。

（奨励の中で父が書き残した1990年8月15日の「終戦の日に思う」という文章を少し読ませていただきます）

以上です。よろしくお願いいたします。